

デジタルの知識がない職員も1から学べる環境を整備！ 学習者の間口を広げ、中長期目線で庁内のデジタル化を推進

栃木県では、業務のデジタル化を推進し、より便利で質の高い県民サービスの提供を目的とした「栃木県庁デジタル人材育成方針」を実施しています。5年間で合計900人のICT人材育成をめざすこの計画について、策定に至った背景と課題、今後の取り組みを詳しく伺いました。

栃木県庁が推し進めるデジタル人材の育成

猿山: 2023年2月に「栃木県庁デジタル人材育成方針」を策定しました。少子高齢化が進む社会の中、限られた人員で県民サービスの質を維持・向上するためには、デジタルツールの活用が必要不可欠です。そこで、デジタル技術を使って業務を効率化できる「デジタルに知見のある職員」を育成する

ことが急務であると考えました。育成するデジタル人材は「デジタルスキップ」と名付けています。スキッパー（小型船の船長）から着想を得て、それぞれの所属内でデジタル活用について考えながら導いていく存在になってもらうことを期待しています。



栃木県
行政改革ICT推進課
課長補佐
さる やま ひろあき
猿山 浩臣さん
1997年、栃木県庁に入庁。
電気職として主に営繕業務に携わる。2021年から現職。



栃木県
行政改革ICT推進課
主査
とよだ さとし
豊田 智士さん
2009年、栃木県庁に入庁。
東京事務所、会計管理課等を経て、2020年から現職。

「デジタルスキップ」の特徴とめざす姿

猿山: 2023年度からの5年間で最大900名のデジタルスキップを育成します。栃木県庁にはおよそ4,300名の行政事務を担う職員がおり、900名はそのうちの約20%に相当します。この人数がデジタル技術に関する知識を身につければ、どの所属にも1人以上はデジタル人材が行きわたる計算です。

デジタルスキップには意欲のある希望者を指定し、Udemyを活用したオンライン学習と、その他の体験型研修を通して知識・技術を習得します。デジタルスキップが実際にICTツールを有効活用し、業務改善しながら庁内のDXを推進する姿を他の職員

が目にすることで、「こんな風に効率化できるんだ」と実感し「自分もやってみよう」という意識改革につながることも狙いの一つです。

また、それぞれの部署で「Excelでこういう処理をしたいが、数式はどう書けばよいか」「こんなデジタルツールを使いたいが、難しくてわからない」という場合も、身近にデジタル技術を学んだ人がいれば聞きやすいですね。そういった小さな変化から、県庁全体のDXにつなげていきたいと考えています。

レベル別に学習できるUdemyで職員の幅広い学習ニーズに応える

豊田: デジタルスキップは意欲を重視して手上げ制にしたため、それぞれの職員のデジタルに関するレベルは千差万別です。知識や技術に差がある職員を育成するためにどんな方法が適切かを検討した結果、多くの講座からレベルや目的に応じて学習できるUdemyがぴったりだと考えました。

猿山: 集合型の研修では、聞き逃したときに講師にもう一度質問するのは勇気が必要です。しかし、オンライン講座は見直しができるので「何度でも自分の納得いくまで学習できる点が非常

に便利だ」という声が職員から聞かれました。また、初心者から上級者まで知識レベルに応じてわかりやすい講座が豊富なのも大変好評です。Udemyでの学びを活性化するため、庁内ではTeamsのチャットグループを作りました。「この講座が良かった」と職員同士が情報交換する場面も徐々に見え始めています。今後も質問やおすめの講座が飛び交うような活発な場づくりを行い、ますますデジタルに関する知識、スキルが深まるように工夫していきたいと思っています。

「デジタルスキップの育成」の概要



庁内人材育成のワンポイント事例

同じ受講者が複数年度にわたって学習を深める。 栃木県が考える「意欲を重視したデジタル人材育成」

今回、デジタルスキップを募る際に意識したのは、デジタル技術を習得することが社会で求められる中で「デジタル技術を学ぶための時間確保ができない」、または「苦手なので学習についていけない」と不安がある人の背中を押すことです。そんな迷いを持つ人へのメッセージとして、「日々忙しい業務を効率化するためにデジタルスキルを学ぶ必要性がある」ということと、「デジタルにまったく詳しくない方も1から勉強できる」という声かけをし、チャレンジしやすい

発信を心がけました。自治体のデジタル研修では1人の職員につき1年のみという場合もありますが、栃木県では職員の学習スタート時のレベルに関わらず、徐々にステップアップしていけるカリキュラムを想定しています。1年限りで学習をやめるのではなく、中長期で学習計画を立てられるようにしたのが大きな特徴です。意欲に応じて学習を深化させ、複数年計画でデジタル人材を育成していく方針としています。

小さなステップを大切にして、息の長いデジタル啓蒙活動と学習サポートを

豊田: 毎月発行している「働き方改革・DX通信」という庁内のお知らせやデジタルスキップのチャットグループを活用し、ICTツールのお役立ち情報などデジタル技術に少しでも興味を持ってもらえるような情報共有を心がけています。

Udemyでの学習を通して目指すのは、デジタル技術の知識やスキルの習得やITパスポート試験の合格を経て、最終的に実務でDX推進へつなげていくことです。けれども、まずは日常

業務でよく使うWord・Excel・PowerPointなどのツールに関する学びを得ることも重要だと思えます。小さな業務効率化であっても、それを重ねて成長して、デジタルを活用した業務の見直しや所属内での取り組みの推進活動がどんどん進めばうれしいですね。まずはそれぞれの職員にできる小さなステップから始めて、長く学び続けること、そして学びを現場で活用するためのサポートを今後も続けていきたいと思っています。

